



【2017-07-12】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『時間とは、その人の
人生そのもの』

長野修二

時間とは、その人の生き方そのもの

仕事に追われていると、常に時間がないように感じるものです。

企業における仕事は、時間そのものでしょうか。

仕事には、必ず期限があるからですが、それにしても事業計画に基づき休む暇なく、毎日仕事の流れがやってきます。

そもそも時間が頭から離れることはないのかもわかりません。

そう言えば、遠い昔、小学生になって決められた時間に起床し、登校し、そして勉強するという生活から時間に追われるようになっていったように感じます。

当然、私のように勉強をしない人間は、先ず、朝起きられません。

大半は起こされ、それでも起きなければほっておく母親でしたから、なんと遅刻が多かったことでしょうか。

また、少し具合が悪ければ、さっさと学校を休みにしてました。

放課後以外の学校生活になじめない（怠惰とわがままな性格なのですが）

小学生の私にとって、このような休みは至福の時でした。

時間通りにできない学生生活は大学まで続いたでしょうか。

もっとも、高校は出席日数や試験の点数によっては落第しますから、多少遅刻や休みやかも減りましたが、それでも夜の生活にはまり、大事な試験に遅刻をして試験を棒に振る愚をやらかしてしまいました。

次の試験で赤点（40点）の倍の点数を確保してなんとか落第は免れるのですが、この生活はなかなかやめられないものです。

大学時代は、これに一人暮らしが加わるわけですから、時間のコントロールはすべて自らがおこない学生生活をエンジョイしたのは言うまでもありません。

留年しない成績だけ確保すれば、やりたい放題だったでしょうか。

それでも高校まで本を読まない生活でしたが、一人暮らしの生活にテレビを置かないと決めて生活したことで、暇な時間（息子達に言えば鬻蹙を買いますが）の友は、本とラジオということだったのです。

大学時代の経験から得た教訓は、時間は自分でコントロールするものだ、ということだったのかもわかりません。

特に勉強をしない私には、そう思えてなりません。

それでも社会人となり、企業での生活が始まると朝早くから、だいたい会社内で一二番に出社し夜遅くまで働きました。

今朝、テレビでみた「時差Biz」などは、社会人になったときからやっていたので、今更どうしてという感じでしょうか。

なぜ、早く入社するか？

理由は、簡単です。

人が少なくゆったり通勤できる。（元来、田舎者で人が多いのが嫌）

朝早く入社することで、その日の仕事の段取りを入念にすることができる。

（段取りと同時に、その日の仕事のイメージを作る）

皆さん、出社が遅いので新人でも上司や管理職の覚えめでたくなる。

へそ曲がりな私ですから、今なら「超時差Biz」をやるでしょう？

これはサラリーマン生活の最後までそうでしたから、人は変われば変わるものなのです。

また、変われるのが人間でしょうか。

しかも、自ら時間を主体的にコントロールして会社生活ができたのは、学生時代における「自由と主体性に基づく時間管理？」のおかげだったのかもわかりません。

時間は常に自分のものであり、自分が自分の時間を作るという習慣ができていたからだ、と実感しています。

これはサラリーマン生活を離れてからも同じかも知れませんが、常に時間を自分のものとしていろいろなものと接しています。

仕事に限らず、家庭、趣味、自然との触れ合いでも、本を読むことでも。時間と自分は一心同体といった感覚でしょうか。

多くの人達をみてきましたが、会社でみる人たちは、会社の仕事に時間を捧げ、自分で時間をコントロールしているのは、仕事帰りのわずかな時間くらいにみえてしまう人も少なくなかったように思います。

わずかな時間を、いろいろなところで楽しんでいる光景をみてきました。それでも楽しいひと時はすぐに終わりを告げ、終電に間に合うように家路を急ぐ姿に、自分とは違うものを感じていました。

自分は自分の時間で遊ぶといった感じでしょうか。

当然、一人で遊ぶことになります。

楽しい時間ですが、すべて自己責任になります。

その行動（ときに悪い行動もあったでしょう）の中で生まれる葛藤が

今日の自分を作り、自分の人生があるように思えます。

あまり群れたがないことは、幼いころに自分の時間を楽しむ自分ができあがったからでしょうか。

サラリーマンの場合、どうしても企業に雇用される点で自らの時間を企業に売って仕事をし、その対価として賃金をもらうことになります。

その生活は、往々にして時間を企業に売っていることで、多くの人は、時間に対して主体性を喪失させてしまうのかもわかりません。

また、主体性をなくしたほうが楽なこともあります。

時間に主体性をもつことは、時間をどのように使うかという自らの意思と行動がそこに発生するからです。

これが結構エネルギーがいるのです。

しかも、主体的に時間を使うとその責任は間違いなく自分に降りかかってきます。

学校生活も同じように学校や先生に身を任せることで卒業までいってしまっただけが楽なのかも知れません。

一部の優秀な人間は、私とは違う主体性（単に怠惰な性格と自分のわがままのための主体性ではなく、目標をもって自分で時間を管理するという主体性ですが）、時間を自分のものとして主体的に使って自らの目標に向かって邁進していました。

会社生活でもこのタイプは同じように主体性を発揮します。

このような人間は数は少ないですが、それなりのところへ入り、相応な生活をしています。

見事に時間を主体的に使って人生をやり遂げています。

長い人生でみると、本当に少数ですが、このようなタイプは人間性もなかなかよいのです。

小学生時代と変わらない豊かな人間性を保っている人がいたりします。

だからこそ、たまに会っても昔のように気さくに楽しく、そして面白く会話がはずみます。

他方、成績がよろしくないやんちゃ坊主も時間を主体的に使って相応の悪いことをやっていたますが、それでも成長して会社経営をやっていた

りと、案外、時間を主体的に使う側にいるものです。

また、人間性も優秀タイプと同様で、気さくで楽しく、そして面白く会話ができるものです。

私がみてきた会社生活でも、時間を自ら主体的に使って会社生活をやっている人もいれば、会社に従属しながら仕事をしている人達もいました。もっとも、企業の中で多いのは後者でしょうか。

サラリーマンでも自由にやっている人間は、だいたい時間を主体的に使っています。

言葉を変えれば、自分の生活を主体的に考えながら仕事をこなしているということです。

少し言い過ぎた言葉で言えば、会社を上手く利用しながら仕事をしているということになるのでしょうか。

結論からすれば、企業は個人を守るために存在していませんから、企業に雇用されようが自らの時間は自らで主体的に使う以外にありません。どんなに仕事をして、そのために自分の何かが犠牲になっても、それについて文句をいってもはじまらないのが企業というところです。

もっとも、労働基準法などの法を順守することが前提ですが、それでもなかには問題がある上司はいるものです。

人間である以上、どこの企業でも問題がある人は、一定数存在します。

社会という場でも同じではないでしょうか。

また、よい人も必ず一定数いるのが、人間社会なのではないでしょうか。

こんなとき、時間は自分のものだという主体性は生きてきます。

時間を使う主体性には自らの責任が生じるからです。

企業社会では、このタイプには概していろいろな嫌がらせがおこなわれるものですが、主体性ある仕事をしていれば、なかには私のような問題児を支えてくれる人間が現れます。

大体、サラリーマン社長とか、あるいはオーナー企業の創業者、あるいは他部門の先輩達などでしたが、このような人たちは「仕事の中身」をみえています。

また、こちらも徹底的に仕事をし、その結果を残してきましたが、やるべき方向性がある程度間違っていなければ、陰に日向に支えてくれまし

た。

今の時代、私たちの時代とは違う条件で会社に従属しなければならないことも多いようですが、それでも仕事をベースに時間を主体的に使う以外に自らの人生はないのではないのでしょうか。

時間は、人間に平等に存在しますが、その時間をどのように色付けするかは、あくまで個人の問題です。

また、だからこそ人生に大きな違いが生じてきます。

とくに年齢に応じた時間がありますし、また、家族を含めた時間もあります。

友人との時間もあるでしょう。

趣味の時間もあるでしょう。

そのすべては、自分自身で時間を主体的に使う以外に存在しません。

私も猛烈に仕事をしてきたほうですが、必ず休暇をとって家族で旅行にいていましたし、日頃の仕事の中でも趣味があれば、主体的に（さっさと）退社していました。

あるいは、1か月の長期休暇を取得したこともあります。

子供の病気で長期休暇を取得したときもありますが、あくまで自分でそのときに必要な行動（時間）をとるだけです。

それでも大変な苦勞をしたのは妻のほう（妻の時間）だと思います。

そのような事実は、企業の中では誰にもわかりませんし、また、企業というところは、それを理解してもらえないのです。

まわりの人たちはいろいろと言いますが、休暇を取得することが自分の人生だ、と割り切ります。

いろいろと言われても、企業というところは「仕事」で結果を残す場ではないです。

当然、その責めは自らが受けることになります。

ありとあらゆることを仕事の時間と自らが選択する時間で比較考量し、主体的に時間を選択してきました。

その結果が今の人生そのものなのでしょうか。

時間の使い方ひとつで人生を豊かにすることができ、あるいは厳しい結果になる場合もありますが、失敗も含めて納得した時間を過ごせるのは

主体的に時間を使うしかありません。

自らのまわりを見ても時間の使い方が上手い人が結構いるものです。

このような人達から学ぶのもよいでしょう。

とくに長い人生を終えた経験者の中で豊かな人生を過ごしている人を見つけることは、自らの人生（将来）を知るうえで有用な経験となるでしょう。

時間に追われる今日、改めて生きるということ自分の時間の中で考えてみることに意味がありそうです。

時間に飲み込まれて暴言を吐いたり、責任ある地位にありながらその任に堪えられない人は、そもそも時間を主体的に使うことができず時間に流されているだけの人もわかりません。

企業社会の中にはこのような人達も多く、時間ばかりをいう人ほど窮屈な仕事をし、余裕がないことも多く、はたから見ると貧しい人生を歩いているようにも思えます。

しかも、部下を育成できず、仕事の成果もあがらないケースをしばしばみてきました。

人が貧しいということは、いずれ企業も貧しくなるものです。

もっとも困るのは、その人のまわりの人の人生も貧しくするからです。

時間が豊かな人生を与えてくれることはなく、豊かな人生は自らの主体性で時間を使うことでしか得ることができないのではないのでしょうか。

時間とはなかなかやっかいなものかも知れませんが、やっかいだからこそ、人が主体的にかかわっていくことで豊かな時間が生まれるのではないかと感じています。